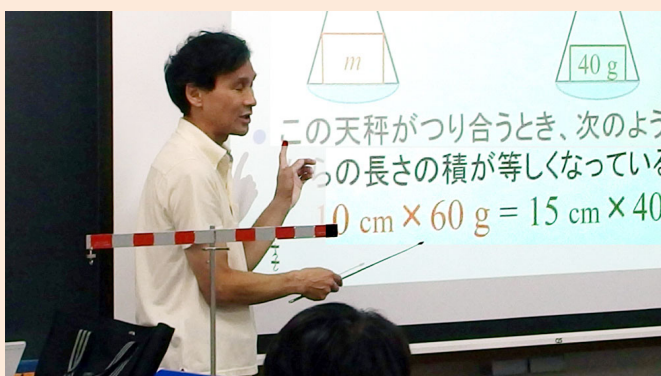


「授業公開」お授業拝見

本学では2008年度後期より「授業公開」を設け、授業をとおした教員間の交流を図ってきました。今年度前期においても、先生方のご協力を得て12科目の公開が実現いたしました。言葉の強弱・緩急で巧みに学生を誘導する授業、問いかけと接続詞の巧みな利用で惹きつける授業、意外性のある質問で学生に揺さぶりをかける授業など、学生とのコミュニケーションを考える上で参考になるものばかりです。

その中から初年次科目「実感する科学」を紹介します。この科目は、科学リテラシーの涵養と数量的取扱、概念の一般化、論理的思考力を訓練する目的を持ち、担当教員間で内容に統一性を持たせながら展開している科目です。それゆえに、同一内容に対する教員の創意工夫の違いも伺えます。ここでは昨年度、教育力の高い教員として表彰された藤村陽先生と栗田泰生先生の授業に注目しましょう。



小物を使い、実演・経験させつつ学生たちの生活世界から自然科学的事象を実感させ、意味を掴ませているのが藤村ワールドです。授業中に適宜挿入される「基本問題」で現象の具体を抽象化するとともに、計算スキルの向上も目指されていました。

写真は第12回「ものを動かす力」の回で、「てこの原理と天秤」から「基本問題」に向かうところです。



同じ「ものを動かす力」でも「宇宙の話」から始めるのが栗田ワールドです。地上では様々な力が働くので、宇宙に行くとシンプルに重力を扱います。地球の公転・月の回転とハンマー投げの力の向きを比較し身近な「力のモーメント（トルク）」を意識させていきました。

国立天文台4次元デジタル宇宙ソフトなども駆使し、宇宙での距離感や力の作用などを魅せてくれました。

教育力向上ワークショップの開催 4月～5月

2019年度、第1回・第2回教育力向上ワークショップが、以下の日程・内容で開催されました。

開催日・テーマ・活動概要	アンケート集計結果																																										
4月24日・5月13日 第1回ワークショップ 「授業設計のための目標と評価の設定」 受講者の活動： ①学修活動を可視化するために行動動詞を用いて、授業の「到達目標」を設定 ②①に基づいて適切な「評価方法」を設定 ③①と②を調整しながら自己のシラバス上の記述を改善	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>どちらでもない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Q1テーマ・内容</td> <td>13</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q2講師の資料</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q3WSの活動</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q4期待した知識</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q5自己の収穫</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q6活用可能性</td> <td>12</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 参加者 16名 (A1, I1, N1, D2, V2, L1, U5, 職員1, 教開セ2)		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	Q1テーマ・内容	13	2	0	0	0	Q2講師の資料	11	4	0	0	0	Q3WSの活動	9	6	0	0	0	Q4期待した知識	9	6	1	0	0	Q5自己の収穫	15	0	0	0	0	Q6活用可能性	12	2	1	0	0
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満																																						
Q1テーマ・内容	13	2	0	0	0																																						
Q2講師の資料	11	4	0	0	0																																						
Q3WSの活動	9	6	0	0	0																																						
Q4期待した知識	9	6	1	0	0																																						
Q5自己の収穫	15	0	0	0	0																																						
Q6活用可能性	12	2	1	0	0																																						
5月24日・6月3日 第2回ワークショップ 「学生の主体的学びに向けた授業の設計」 受講者の活動： ①自己の授業での教授計画を学生の学修プロセス（認知モデル）に基づいて再設計 ②「主体的な学びを育む技法」リストを参照し、自己の授業での文脈にあてはめつつ教授計画を再検討	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>満足</th> <th>やや満足</th> <th>どちらでもない</th> <th>やや不満</th> <th>不満</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Q1テーマ・内容</td> <td>16</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q2講師の資料</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q3WSの活動</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q4期待した知識</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q5自己の収穫</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>Q6活用可能性</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> 参加者 20名 (I2, N1, D3, V2, B1, L1, U7, 職員1, 教開セ2)		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	Q1テーマ・内容	16	3	1	0	0	Q2講師の資料	16	4	0	0	0	Q3WSの活動	11	6	2	1	0	Q4期待した知識	13	5	1	0	0	Q5自己の収穫	12	3	0	0	0	Q6活用可能性	9	6	0	0	0
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満																																						
Q1テーマ・内容	16	3	1	0	0																																						
Q2講師の資料	16	4	0	0	0																																						
Q3WSの活動	11	6	2	1	0																																						
Q4期待した知識	13	5	1	0	0																																						
Q5自己の収穫	12	3	0	0	0																																						
Q6活用可能性	9	6	0	0	0																																						

今年度より、皆様の受講機会を増やすために、各回ともに別日で2度開催することにしました。次回テーマは「ティーチング・ポートフォリオ入門（初級：チャートの作成）」です。皆様のお越しをお待ちしております。

Times Higher Education 大学改革カンファレンス 2019 参加記録

Times Higher Education (以下「THE」と表記) 大学改革カンファレンス 2019 に参加しました。当日、THE 世界大学ランキング日本版 2019 (以下「日本版 2019」と表記) の発表がありましたので、少々時間が経ちましたが、カンファレンス内容およびランキングに関して報告します。

I THE 大学カンファレンス 2019 次第

【日時・会場】	2019.3.27 14:00~17:30 ベルサール新宿グランデにて
【主催】	Times Higher Education / ベネッセコーポレーション・進研アド
【第1部 基調講演】	「シンガポール国立大学におけるレピュテーション構築戦略」
講師；	シンガポール国立大学主席広報官 Ovidia Lim-Rajaramu 氏
	・THE 世界大学ランキング世界版でアジア1位のシンガポール国立大学 (NUS) の、国際的に高い評価を得るにいたる戦略。卓越したリーダーシップ、海外大学との連携
【第2部 ランキング】	「THE 世界大学ランキング日本版 2019 の詳説」
講師；	THE データ解析ディレクター Duncan Ross 氏
	・日本版指標の変更点。教育にシフトしたランキングの目的。「教育充実度」に「学生調査」結果を盛り込んだこと。
【第3部 情報提供】	「ランキングの大学改革への活用」
	・ベネッセコーポレーションと進研アドからの情報 … 「学生調査」項目に大学改革のキーワードが多く含まれる。

II 日本版 2019 のランキング

1 ランキング指標 — 分野・項目・比率 2019 / 2018

分野	項目	2019 比率	2018 比率
教育リソース	学生1人あたりの賃金 (8%)	34%	34%
	学生1人あたりの教員比率 (8%)		
	教員1人あたりの論文数 (7%) 大学合格者の学力 (6%) 教員1人あたりの競争的資金獲得数 (5%)		
教育充実度	学生調査 a ; 教員と学生の交流、協働学習の機会	6%	—
	学生調査 b ; 授業、指導の充実度	6%	—
	学生調査 c ; 大学の推奨度	6%	30%
	高校教員の評判調査 ; グローバル人材育成の重視	6%	13%
	高校教員の評判調査 ; 入学後の能力伸長	6%	13%
教育成果	企業人事の評判調査	8%	10%
	研究者の評判調査	8%	10%
国際性	外国人学生比率 (5%)	20%	20%
	外国人教員比率 (5%) 日本人学生の留学比率 (5%) 外国語で行われている講座の比率 (5%)		

★ 国公立別 ランキング校数

◆ 総合、各分野ともに「ランクイン」として発表されているのは150位までです (総合は150位が2大学あるため151大学がランクインしています)。

◆ 右の表は、国立・公立・私立別にランクインした大学数を示したものです。青字は、国立・公立・私立それぞれの総大学数に対してランクインした大学の%です。算出には、2018年の学校基本調査による次の大学数を用いています。

[国立 ; 82 公立 ; 93 私立 ; 603]

◆ 総合および各分野のランキング詳細は、THE のホームページに

掲載されています。 <https://japanuniversityrankings.jp/ranking>

	国立	公立	私立
総合	58	23	70
	70.7%	24.7%	11.6%
教育リソース	58	28	64
	70.7%	30.1%	10.6%
教育充実度	51	21	78
	62.2%	22.6%	12.9%
教育成果	56	18	76
	68.3%	19.4%	12.6%
国際性	49	22	79
	59.8%	23.7%	13.1%

(大学数は大学院大学を除いています)

2 日本版 2019 教育充実度の「学生調査」

- (1) 2018年7月7日から10月31日にかけて全大学に案内し学生アンケートを実施
 - ・ web 回答。大学ごと固有のメールアドレスを割振るなどにより、回答が当該大学在籍であることを確認の上で集計。有効回答数を50とし、有効数に達した大学についてその平均値でランキング（達した大学数 226）
- (2) 学生調査の3項目
 - a 教員・学生の交流
 - ・ 学習経験の中で教員との交流の機会はどの程度あるか、協働学習の機会はどの程度あるか
 - b 授業・指導の充実度
 - ・ クリティカルシンキングのスキル成長支援機会、学んだことをじっくり検討したり相互に結び付けたりすることの支援機会、学習内容を実社会に応用することの支援機会、受講した授業はやりがいあるものか
 - c 大学の推奨度
 - ・ 友人や家族が大学に行くことを検討していたら自分の通う大学をどの程度勧められるか

世界ランキングが「研究」に軸足を乗せているのに対して日本版は「教育」に重きが置かれていると説明されます。「研究」と「教育」は両輪ですから、日本版と銘打っていても日本版上位校は世界版にランクインする大学と同様の顔ぶれになるのは当然のことでしょう。一方で、「教育」重視の日本版には、大学教育改革の鍵が盛り込まれているとも言われます。**THE** では日本版改善の観点から今回のランキング発表に際して、学生調査をデータソースに導入し、教育充実度分野の指標を大きくかえてきました。教育充実度分野でランクインした150大学のうち22大学は今回新たにランクインした大学です。

III 教育充実度でランクイン（THE ランキング日本版に関するその他の情報）

- ◆ 日本版2019において、本学は教育充実度146位にランクインしました。
- ◆ 総合ランクイン151大学、部門のみランクイン64大学。2019年版掲載大学は215大学でした
- ◆ 上に記したとおり、学生調査の有効回答数に達した大学数は226でした。教育充実度の指標の中で学生調査は60%を占めますので、有効回答数に達した大学はランクインに有利ですが、高校教員の評判調査も指標に入っていますので、教育充実度の順位は学生調査のみによるものではありません。
- ◆ なお「東京周辺に所在する理工系大学13校」の中で総合にランクインした大学は6大学、部門にランクインした大学は3大学でした。

本学の履修要綱の記載から

Vision 考え行動する人材の育成をめざしています。
Process そのため、学力にあった少人数基礎教育、得意分野を伸ばす個人指導などを実施しています。
Evidence その結果、**THE** 世界ランキング日本版 2019「教育充実度」で146位にランクインしました。

高校生・受験生目線にすると ………

「大学の教育に充実感をもつ学生が多い。ゼミや個人指導によって関心に沿った分野を主体的に学ぶことができ、そのために必要な基礎基盤は学力に応じた少人数授業によって培われる。この大学で学ぶことにより、これからの時代に必要だといわれる、自ら考え行動できる力を身に付けられるのではないだろうか。」

Benesseが**THE**と結びついたことにより、**THE**ランキングは徐々にあるものの確実に高校の進路指導、生徒の大学選択に影響を及ぼしそうです。大学の、「何ができるようになったか」、「どこまでできるようになったか」という到達目標への歩みやその達成が学生の教育充実度として現れるならば、より高めていこうとすることはランクアップのための方策ではなく、内実のある取組として期待されるのではないのでしょうか。

（教育開発センター カリキュラム・コーディネーター 小田貞宏）

【連載】アクティブ・ラーニングの手法：第5回 「ティーチング・ポートフォリオ」

ティーチング・ポートフォリオ（以下、TP）をご存知でしょうか。「第3回 教育力向上ワークショップ」の標題（「ティーチング・ポートフォリオ入門：初級：チャートの作成」120分）でも示しました。TPは教員の教育活動全体、キャリア構成にも関わる重要なものですので、今回はとくに注目し取り上げてまいりましょう。

■ TPってなんだろう？

大学教員は「資格のない最後の専門職」と言われています。昨日まで研究・調査・開発・実務に邁進していた者が、今日からいきなり授業を任されることとなります。私も含めてそこに投げ出された皆様も、初めは戸惑い危機感を覚え、「なんとかしよう」と努力されたことでしょう。しかし、何しろ教育のみならず研究・学務・社会貢献と多方面での評価に晒され、常時多忙を極めるので、着任当初の教育力への危機感などはすぐに忘れてしまうものです。胸に手を当てて思い返すと、教室・研究室を巣立っていった学生の顔とともに気持ちの良くない汗も沢山出てきます。そう思った時、以下の問いかけを自分に発し、考え、答えを出してみると良いでしょう。

1. あなたはなぜ教員になったのでしょうか？
2. あなたの教育への思いはどのようなものなのでしょうか？
3. あなたの現在の職責（担当授業等）は何でしょうか？
4. 3を全うするために、どのような実践・手法をとっているのでしょうか？
5. 上記1・2はどのように4の実践・手法に反映しているのでしょうか？
6. それを示すエビデンスは何（例：学生アンケートや公開授業の結果等）でしょうか？
7. 6から見て、4は成功しているといえるのでしょうか？
8. 以上を鑑みて、現在の授業実践・教授手法はどのように改善すべきでしょうか？
9. そのために、すぐに出来ることは何でしょうか？
10. 時間をかけてもやらねばならないことは何でしょうか？

ここで掲げたものがTPの視点となるものです。TPでは、教員の教育観、教育理念や日々の教育実践など、漠然としたイメージとして持って過ごしているものを言語化（可視化）することにより、己の教育活動全体を振り返る記録の作成を戦略的に行っていきます。そして、改善のための短期的・長期的な行動目標を見出ししていくのです。

■ 「TPステートメント」と「TPチャート」

大学で教壇に立つ以上、皆がTPを作成し自己の教育改善のPDCAを回せるようになれると良いでしょう。しかし、TPをしっかりと書くと通常A4版で10頁以上の長大なものになる上に、客観的な視点が不可欠ですのでTP作成経験のあるメンターの支援が必要とされ、あまり現実的ではありません。

そのためTPの要点だけをまとめた「TPステートメント」（A4版で1～3頁）や、振り返り活動に焦点をあてた「TPチャート」（A3版1頁）が考案され、諸大学で広く使われるようになっていきます。

■ TPを作成してみませんか？

北米の大学ではTPは「研究業績リスト」に匹敵する「教育業績」のエビデンスとして広く使われています。本学にはTPのメンターが二人おり、求めに応じて対応することができる環境がありますので活用されてはいかがでしょうか。私的には、授業の振り返りであればTPチャートの作成でも有効と考えています。まずは「ティーチング・ポートフォリオ入門（初級：チャートの作成）」を受講し、初めの一步を踏み出しましょう。 <伊藤勝久>

参考文献：土持ゲーリー法『ティーチング・ポートフォリオ：授業改善の秘訣』東信堂、2007年
大阪府立大学高専TP研究会『実践 ティーチング・ポートフォリオ スターターブック』NTS、2011年

あとがき：「公開授業」では、注目度や評価の高い授業を学科等から推薦してもらい参観を呼び掛けています。時間が合わない等で見学が難しい面もありますが、自らの授業実施にも役立つ何かがあると思います。11月にも予定していますので「参観」をご検討ください。ニュース等での詳しい紹介も検討中です。 （所長 井上哲理）

*問合せ先：教育開発センター（KAIT HALL 2F, edc@kait.jp） *バックナンバーはセンターホームページで。